

学校だより

令和2年5月27日



第2号

TEL241-2605

甲府市立大里小学校 文責：長谷川和典

## 学校もやっと再開、 新年度のスタートです！

3/3に始まり、年度末・学年はじめの休業日をはさんで3ヶ月近く続いた臨時休業が終わり、やっと学校を再開することができました。

5/24(日)に入学式。5/25(月)に始業式。実質的な新年度のスタートです。

「おはようございま〜す」と響く子供たちの元気な声。久しぶりに登校する子供たちの姿に、学校にもやっと活気が戻ってきたことを強く実感しました。



始業式は感染リスクを避け、校内放送を通して行いました。式の中で、子供たちにはめあてを持って努力してほしいこと、病気にならないようにこれまで以上に気を付けて生活しなければならないことを伝えました。



現在も新型コロナウイルス感染症の感染リスクがなくなったわけではありません。「新しい生活様式」を身に付け、安全に配慮して学校生活を送ることになります。

## 待ちに待った入学式です！

79名の新入生を迎え、5/24(日)に入学式を行いました。感染リスク回避のため時間を短縮しての実施ではありましたが、小学校初日の新入生にとって、じっと座っていることはとても大変だったと思います。しかし、前に立つ人の話を聞いたり、礼をしたり、主人公の態度として100点満点の頑張りだったと思います。

式の中では、新入生として頑張ってもらいたいこ

とを3つお話ししました。1つ目は「元気よくあいさつや返事をしましょう」2つ目は「自分のことは自分でしましょう」3つ目は「誰とでも仲よくしましょう」ということです。

6年間という長い小学校での生活で、心も体も伸びやかにたくましく成長してくれることを期待しています。

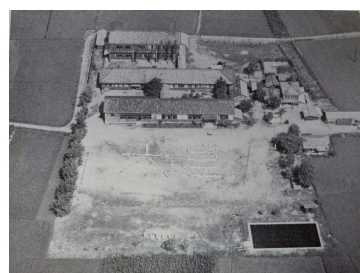


## 学校創立記念日

臨時休業中のことでしたが、5/6(水)に大里小学校が今年で147周年を迎えました。昨今の少子化の影響から統廃合する学校もある中で、二日市場村の東光寺を仮校舎に「厚生館」と号して開校し、昭和21年に大里小学校と改称して今日に至っていることは、地域の大きな誇りではないでしょうか。

現在、世界中で新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために苦慮していますが、人類の歴史を振り返ると、古くはペストや天然痘、そして結核、コレラ、チフス、最近では新型インフルエンザと、人類は感染症との闘いの中で生き続けていると言っても過言ではありません。おそらく、本校147年間の長い歴史の中にも感染症による苦しい時期があったことと思います。そのような厳しい状況乗り越えて、現在の大里小が歴史を積み重ねていると考えると、「何とかコロナを終息させて、次の時代につなげていきたい」と思えてきます。

本校が更なる発展を遂げられますように、今後とも学校教育へのご理解・ご協力をお願いします。



昭和36年撮影

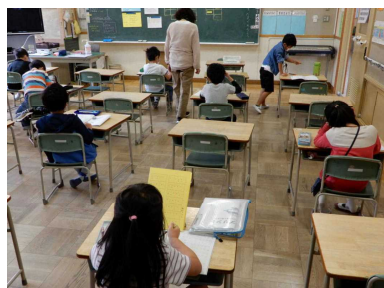


昭和48年撮影

## しっかり自分の課題に 取り組んでいました！

臨時休業中も、学校では子供たちの受け入れを行ってきました。

教室を訪れると、「おはようございます」と元気な声で迎えてくれ、折り紙で折った作品やドリルを見せてくれた子供たち。毎日50人前後の子供たちが



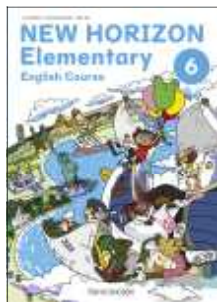
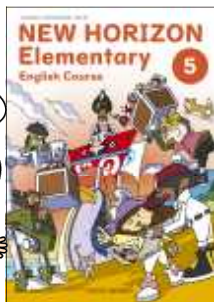
が登校し、勉強や読書、お絵かき、ぬり絵、工作…それぞれ自分の課題に取り組んでいました。

## 完全実施！ 外国語科

いよいよ、小学校では新学習指導要領に基づいた学習指導が4/1からスタートしました。

小学校5,6年生では、これまで外国語活動として学習してきましたが、今年度からは外国語科として学習を進めることとなります。外国語科では、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5つの領域に分かれています。小学校では特に「聞くこと」「話すこと」に力を入れていきます。

グローバル化が急速に進む中、子供たちが将来、国際社会でも臆することなく自分の思いを伝え、様々な国の人々とコミュニケーションをとりながら行動できるように、小学校段階から楽しく、日常的に外国語に親しんでいければと願っています。



## 体も心も負けない～感染症に立ち向かう～

今は多くの方が、手洗いを徹底する、3密を避ける、バランスのとれた食事や十分な睡眠、適度な運動等で抵抗力を高める等、感染予防を心がけている毎日です。その中で、感染症の心への影響による悲しいニュースが報道等で取り上げられています。

感染症の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながることもあります。特に感染者、濃厚接触者に対する偏見から差別が生まれることはあってはなりません。多くの方が悲しく怖い思いをしている「コロナ」によって、さらに「コロナいじめ」のようなことは人として許されないことです。

新型コロナウイルス感染症は、感染経路が不明であるケースも数多く見受けられていることから、誰にも感染の可能性があります。本校の保護者や子供が万一感染した場合であっても、偏見や差別につながるような言動があってはなりません。学校再開にあたって、肝に銘じておきたいことです。

- 第1の感染症「病気そのもの」
- 第2の感染症「不安と恐れ」
- 第3の感染症「嫌悪・偏見・差別」
- それがさらなる感染拡大だけでなく  
異なる病気の発症につながることも

「新型コロナウイルスの3つの顔を 知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～」日本赤十字社より

